

連携・支援部会 活動報告書

部会長 藤村 出

1 今後の方向性

- 教育委員会と連携し、すべての教員の専門性の向上を図る。その際、心理検査のできる高いスキルを持った教員と、通常学級の担任等の一般の教員とは分けて考える。
- 本部会で検討するのは一般の教員の専門性の向上。読み書きに難しさのある子どもたちの支援を入り口として、すべての教員がそれまで見落とされていた子どもたちの困難さに気づき、支援につなげられるような体制を整備するために助言や援助を行う。
- 高校入試及び高校生活における合理的配慮について、教育委員会と連携しながら、その在り方や方向性を検討していく。特に高校入試については診療体制部会とも連携しながら、教育分野でできることと医療分野でできることをリンクさせながら考えていく。
- 発達障がいサポート・マネージャーの配置について、その役割を改めて見直すとともに、それぞれの圏域において人が変わってもその役割が持続できるような体制を構築するための検討を行う。
- 発達障がいのある子どもの放課後支援のあり方について、放課後等デイサービスや放課後児童クラブ、放課後子供教室等の現状やそこで行われている支援内容について把握し、今後の方向性について検討する。

2 来年度取り組むべきこと

- 診療体制部会と連携し、LDのライフステージにおける教育と医療の連携について、どのタイミングで何をすればよいのかをそれぞれの立場から考え整理する。
- 特に高校入試については学校と病院の連携のあり方について、「病院からどのような情報をもたらせばいいのか」「病院と連携するために必要な手続きは何か」「病院から得た情報を生かして学校でできることは何か」というような具体的な内容を検討する。
- 教育委員会で進めている「信州型UD」の進捗状況を確認し、今後の進め方について専門的な立場から助言や情報提供を行う。
- 発達障がいサポート・マネージャーの配置について、その役割を「1 必ずやらなければならないこと」、「2 自分の得意分野を生かしてやること」、「3 やってはいけないこと」の3つに整理して考える。
- 放課後等デイサービスや放課後児童クラブ、放課後子供教室等の現状やそこで行われている支援内容について把握し、今後の方向性について検討する。